

# 授業外での活動に積極的に取り組む学生たちの特徴

## —WAVOC 調査を通じて—

河井 亨

(京都大学大学院 教育学研究科)

### 問題意識と目的

今日、「ティーチングからラーニングへ」というフレーズに認められるように、大学教育における学生の学習が重要なものだとの認識は広く共有されるようになってきている(荻谷 1998, 松下 2003, 寺崎 2006, 2007)。近年の研究では、学生の学習の中でも特に授業外での学習が重要であることが明らかになってきた。すなわち授業外で学習することが大学生生活の充実感や将来展望、知識・技能の獲得といった学生の成長に寄与することが明らかにされてきたのである(溝上 2009, 溝上・中間・山田・森 2009)。

こうした授業外での学習に影響を及ぼすものの一つの要因に、様々な工夫を凝らした授業実践が考えられる。たとえば、課題図書への提示などのシラバスの活用や図書館との連携、ICT メディアの活用、グループでの協働学習などがある。またもう一つの要因に、学生たちが授業外でおこなう様々な活動が考えられる。本報告では、後者の要因に注目して、授業外での活動に積極的に取り組む学生たちを対象としておこなった WAVOC 調査 2009 の結果を報告する。

WAVOC では、学生たちは社会貢献活動のプロジェクトに取り組む。学生たちは企画運営を自ら行い、多くのミーティングや長期の渡航や大規模なキャンプなどかなりの時間とエネルギーを注いでいる。WAVOC 調査 2009 では、こうした WAVOC のプロジェクトに参加する学生たち(以下、WSG)と一般の学生たち(n-WSG)とを比較する狙いをもって調査した。分析にあたっては、授業での学習と授業外での学習を区別し、さらに授業外での学習を授業との関連の有無という点から授業外学習と自主学習とに分けて分析した。

### 方法

#### 調査項目

- ① 大学生生活の過ごし方 溝上(2009)で使用された「大学生生活の過ごし方」。授業、授業外学習、自主学習、読書、マンガ・雑誌、テレビ、インターネット、クラブサークル、アルバイト、友人とのつきあいなど 17 項目について、一週間に費やす時間数を“(1) 全然ない”、“(2) 1 時間未満”、～“(8) 21 時間以上”の 8 段階で評定を求めた。
- ② 読書量 授業外学習としての読書と自主学習としての読書に対して、“(1) なし”～“(5) 21 冊以上”という 5 段階で評定を求めた。
- ③ 学習の仕方 授業での学習について「他の授業で学んだことを授業での議論に活かす」という項目と自主学習として「授業外で授業に関連する学習をグループで行う」という項目について、“(1) 全くおこなわない”、“(2) ときどきおこなう”、“(3) しばしばおこなう”、“(4) 非常によくおこなう”の 4 段階で評定を求めた。

## 結果と考察

大学生活の過ごし方 17 項目に対して 1 週間に費やす時間数を因子分析（主因子法、Promax 回転）し、解釈可能な三次元にまとめる。それぞれの因子は、「友人・クラブサークル」「授業外での学習・読書」「マンガ・テレビ・インターネット・ゲーム」と名づけられた。どんな学生も多くの時間を割く授業やアルバイトは因子の分類には寄与しなかった。

次に、「授業外での学習・読書」を構成する項目を授業での学習・授業外学習・自主学習と読書のそれぞれに割いている時間を WSG と n-WSG とで比較した。

表 1 WSGとn-WSGにおける「授業外での学習・読書」項目ごとの差異（t検定）

	WSG (N=228)	n-WSG (N=241)	t検定の結果
大学で授業や実験に参加する	6.31 (1.34)	6.37 (1.42)	t(463)=-0.421, n.s.
授業に関する勉強(予習や復習、宿題・課題など)をする	4.08 (1.71)	3.91 (1.35)	t(432.488)=1.192, n.s.
授業とは関係のない勉強を自主的にする	3.60 (1.83)	3.04 (1.54)	t(446.966)=3.565, p<.001
勉強のための本(新書や専門書など)を読む	3.52 (1.56)	2.96 (1.34)	t(450.5289)=4.205, p<.001

(注)数値は、各項目の評定得点の平均値である。括弧の数値は、標準偏差である。

読書量項目について、WSG と n-WSG を比較した。

表 2 WSGとn-WSGにおける読書量の差異（t検定）

	WSG (N=231)	n-WSG (N=245)	t検定の結果
授業外学習としての読書量	2.75 (.96)	2.41 (.82)	t(452.131)=4.098, p<.001
自主学習としての読書量	3.21 (1.15)	2.86 (1.05)	t(465.024)=3.461, p<.01

(注)数値は、評定得点の平均値である。括弧の数値は、標準偏差である。

学習の仕方項目について、WSG と n-WSG を比較した。

表 5 WSGとn-WSGの学習の仕方についての差異（t検定）

	WSG (N=231)	n-WSG (N=242)	t検定の結果
他の授業で学んだことを授業での議論に活かす	2.43 (.94)	2.16 (.84)	t(457.784)=3.291, p<.01
授業外学習をグループで行う	1.92 (.84)	1.66 (.71)	t(472)=3.569, p<.001

(注)数値は、評定得点の平均値である。括弧の数値は、標準偏差である。

まず、WAVOC プロジェクトという授業外の活動に時間とエネルギーを注いでいる WSG は、n-WSG よりも自主学習としての時間数と読書量が多く、グループ学習を行なう頻度が多かった。ここで、授業外での活動である WAVOC プロジェクトから自主学習への影響を見出すことができる。

次に、WSG と n-WSG との間には授業での学習と授業外学習とに割く時間に有意差はないが、WSG は授業外学習としての読書量が多く、授業での積極的な学習の仕方がより多く見られた。これは、WAVOC プロジェクトという授業外での活動が、自主学習だけでなく、授業での学習や授業外学習をより高い水準に進めるような影響を及ぼしていると考えられる。

WAVOC プロジェクトという授業外での活動が、授業外での学習（自主学習と授業外学習）と授業での学習にポジティブな影響を及ぼすということが明らかになった。これは、WAVOC プロジェクトが社会貢献活動という「知ることについての責任」を伴う活動であるという性格からくると考えられた。